

2018 / 冬 / No.108

来ぶらり



学習院生の

本の読み方

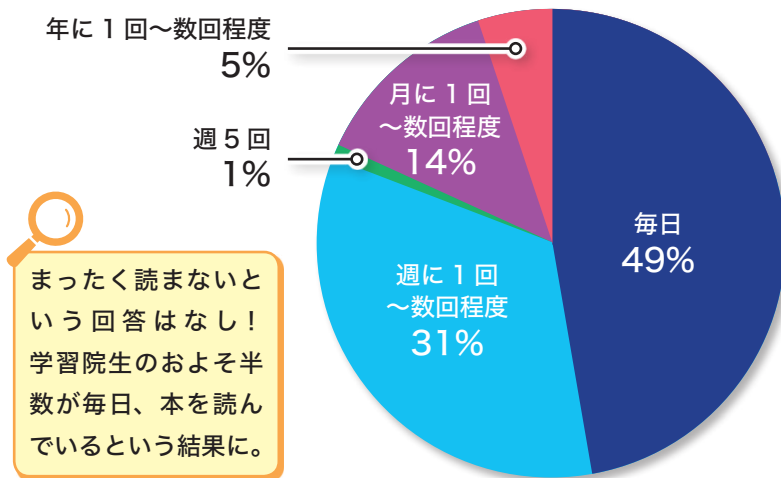
大調査!!!



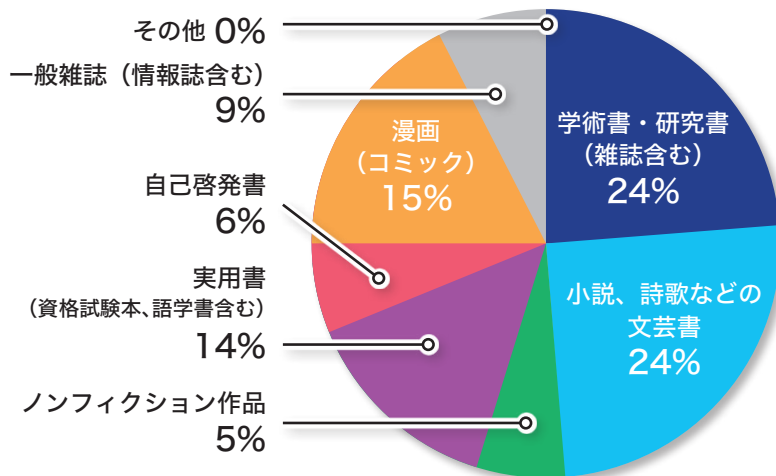
学習院生、大解剖

今回、「学習院生の本の読み方」をテーマにして、
図書館内及び図書館 Web サイトにおいて、
10月上旬～11月末にてアンケートを行いました。
アンケート結果から見た本の読み方、みなさんとはどう違いますか？

普段、どのくらいの頻度で本(電子書籍含む)を読む？



読む本のジャンルは？(複数選択可)



ジャンルは学術書・研究書と文芸書を筆頭に、好きなものやその時、必要なものをバランスよくチョイスしていることがわかります。その他では「三国志」という、三国志への熱量を感じる回答も。

学習院大学図書館貸出 2018年度上半期各ジャンル別 第1位

貸出対象：学習院大学学部生・大学院生

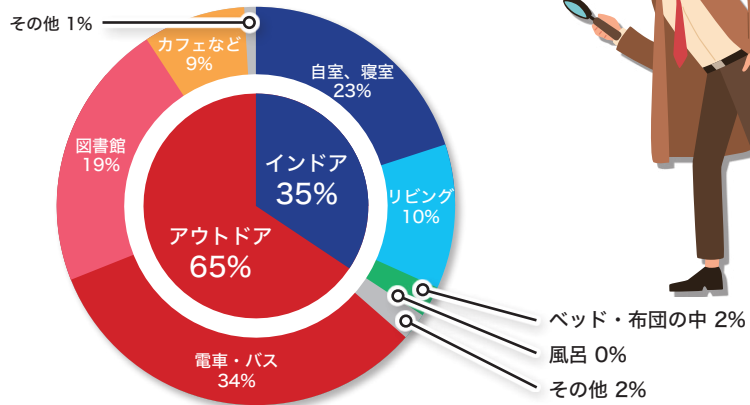
ジャンル	資料情報	配架場所	請求記号
学術・研究書	 岩波講座日本歴史 / 朝尾直弘 [ほか] 編集委員 - 岩波書店	大学図・1F開架	210.1A/O87i/
文芸書	坂の上の雲 / 司馬遼太郎著;新装版. - 文藝春秋, 1999. - (文春文庫).	大学図・1F開架	Bunko/Sh17/1
ノンフィクション	ヴァイツェッカードイツ統一への道 / リヒャルト・フォン・ヴァイツェッカー [著]; 永井清彦訳. - 岩波書店, 2010.	大学図・1F開架	312.34A/W55v
実用書	 山検公式ガイドブック：傾向と対策+実施問題：文部科学省後援実用フランス語技能検定試験 2017年度1級	大学図・1F開架	shikaku/15/2017
自己啓発	嫌われる勇氣：自己啓発の源流「アドラー」の教え / 岸見一郎, 古賀史健著. - ダイアモンド社, 2013.	大学図・1F開架	Best/2014
一般雑誌	輔仁會雑誌 / [学習院輔仁會] 編集部. - 学習院輔仁會, 1890.6-	大学図・書庫	G90/4 ア
その他	 地球の歩き方 A06 フランス 2019～2020 / 地球の歩き方編集室著作編集. - ダイアモンド・ビッグ社, 2018.	大学図・1F開架	travel/2018

※一部のシリーズ図書につきましては、最新のものを代表として書影掲載しています（地球の歩き方 A06 フランス 2019～2020他）

本を読む場所は？

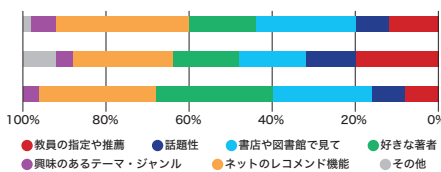


移動中の隙間時間を使って読むという回答が全体の約35%と、時間を有効に使って読書が学習院生のスタイルのようです。

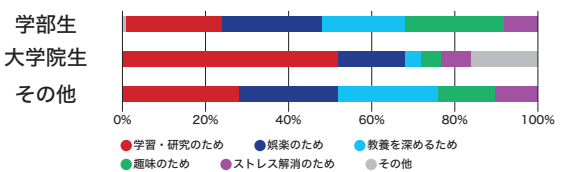


学習院の学部生と大学院生の違いは？

本を読むきっかけ（複数選択可）



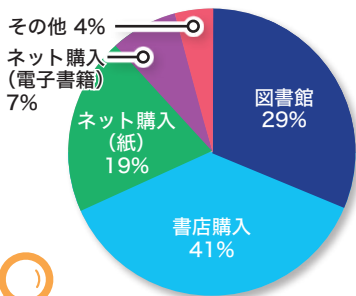
本を読む目的（複数選択可）



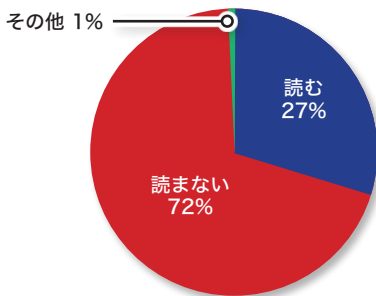
学部生は興味のあるテーマ・ジャンルで本を手取る傾向が高く、本を読む目的也多岐に渡ります。対して大学院生は、教員が指定・推薦する本を学習・研究のために読むことが多いとわかります。

本の入手方法・電子書籍と紙の本

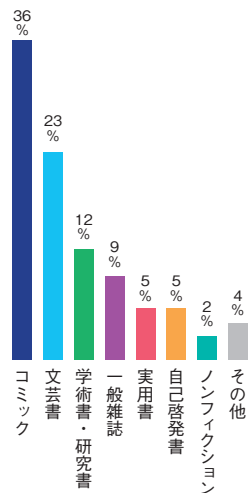
本の入手方法は？



電子書籍を読む？読まない？



電子書籍の利用ジャンル



全体の割合は約40%が書店での購入と答えていますが、その順番で見ると1番最初には約60%が図書館で借りる、と変化がありました。他には、「友人から借りる」、「古書店を利用」、もしくは使用目的やジャンルによって書店・図書館を使い分けるという意見も。電子書籍では、圧倒的に紙派が優勢に。「電子書籍用の

デバイスがない」、「目が疲れそう」、という電子書籍へのマイナス要因の他、「ページをめくる感覚がドキドキするから」「紙の本や本屋が好き」、とより紙媒体への愛着が寄せられました。電子書籍派は、コミックや文芸書を電子書籍で、とジャンルによって紙と電子書籍を読み分けているとの声もありました。



書庫から19世紀ヨーロッパを旅する

文学部 哲学科
教授
有川 治男 先生



活動中の蔵書(左ワゴン)と書庫兼書斎(奥)

「わたしの本棚」ということでお見せできるようなものは、研究室にも自宅にも無い。30年ほど前にいまの家を買ったとき、半地下の部屋を私の書庫兼書斎にして、壁3面に高さ230cm、奥行き40cmの本棚を作りつけ、とりあえずその段階ではなんとかできていたのだが、それ以後も本は増え続け、我が家の他の部屋にも研究室にも本は雑然と溢れている。写真に示したのは書庫兼書斎の一隅。講義とか論文とか何か仕事を始めるときに、関係文献をあちこちから引っ張り出してきて、スチールのワゴンに仮に載せておくことにしている。仕事が終わればまたもとの本棚(というか、そのとき空いている本棚のスペース)に戻す。定年を間近に控えた目下の課題は、これらの蔵書の「終活」。うまく活用してもらえる場がどこかにないのか。



19世紀末のドイツ鉄道時刻表から、ブラームスの旅行をたどる

一冊の本として取り上げたのは、1898年発行のドイツ鉄道時刻表 *Reichs-Kursbuch*。かつて音楽家ブラームスの生涯を調べていた折に、彼の旅行について(とりわけ1896年のクララ・シューマンの葬儀の際の旅行について)より詳しいディテールを知りたいと思って、ドイツの古書店から購入したもの。そのページをめくっていると、数字の羅列の間から、実にまざまざと19世紀末のヨーロッパ社会の様相が浮かび上がってくる。旅行案内書や時刻表は最新の情報を命とする「消耗品」なので、図書館にしても個人の書庫にしても「蔵書」には全く向かないのであるが、歴史資料としてはぎわめて豊かな情報を含んでいるのである。定年後、この時刻表と、やはり手に入れることができた1898年のヨーロッパ航路時刻表とを題材として、1898年のヨーロッパを描くような本を書いてみたいと思っている。

51 来ぶらり No.108 2019年1月19日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
発行責任者：石井晋教授 編集委員：内藤沙織・藤本智美
1階貸出・返却カウンター (内線2397)：☎ 03-5992-1009(直通) 2階レファレンスカウンター (内線2395・2396)：☎ 03-5992-9249(直通)

「来ぶらり」のバックナンバーは (<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>) で公開しています。